

# 語のレベルにおける等価性をめぐって

## —重複部分と相違部分の割合について—

ロワン・バルバラ

キーワード：等価性、重複部分、相違部分

### 1. はじめに

本論文の目的は、二言語辞書における等価性についての対照研究として、日本語とスロベニア語の幾つかの語を比較し、それらの重複部分と相違部分を具体的に明らかにすることである。分析の対象になっている語は気象情報に使われている三つの日本語の語と、それらのスロベニア語での等価関係にある語である。まず、等価性の度合いが異なる語を選び、それらの日本語とスロベニア語においての一言語辞書における意味記述<sup>1</sup>を比較する。そして、日本語とスロベニア語の「平行コーパス」<sup>2</sup>からの用例と、それ以外の実例<sup>3</sup>を対照的に見て、最後に、語間のオーバーラップについて考察を行う。また、調べた三つのタイプの資料からどのような情報が得られるかということについても検討する。

### 2. 等価性の度合いにおける重複部分と相違部分について

言語体系の間には、ずれがあるため、一つの言語に属する語ともう一つの言語に属する語の間に完全に一致する対応関係は少ないと言われている<sup>4</sup>。ロワン (2000a)では、二言語辞書を取り上げ、等価性について考察を行った。その結果、等価性には連続性があるということが分かった。等価性が最も高かったのは専門用語と国際基準に沿って意味領域が決定されている語であった。もう一方の連続性の末端には等価性の欠如がみられ、語彙的ギャップと指示的ギャップ<sup>5</sup>が確認された。

<sup>1</sup> 日本語では「広辞苑」(1998、岩波書店、約23万語)と外国人学習者向けの『日本語大辞典』(1995、講談社、約20万語)を用い、スロベニア語では Slovar slovenskega knjižnega jezika (1970, 1975, 1979, 1985, 1991, Državna založba Slovenije, 約11万語)を用いることにする。

<sup>2</sup> 「平行コーパス」は日本語の場合、NHK(日本放送協会)19時のニュース前の気象情報番組、スロベニア語の場合、RTV Ljubljana(スロベニアの国立放送協会)19時30分のニュース後の気象情報番組からなっている。両方の番組を1999年7月1日~7日、9月1日~7日、11月1日~7日、そして、2002年1月1日~7日、3月1日~7日、5月1日~7日の各一週間で録画した。

<sup>3</sup> 実例は、日本語の場合、朝日新聞、毎日新聞、中日新聞、青空文庫などのオンライン・サイトと「新潮文庫の100冊」CD-ROM版から、スロベニア語の場合、約1億語のFIDAコーパスから収集した。FIDAに関しては<http://www.fida.net>を参照。

<sup>4</sup> Zgusta (1971)はこのずれを anisomorphism (非同形性)と呼ぶ。

<sup>5</sup> 語彙的ギャップとは、一つの言語体系において、あるものが存在しているが語彙化されておらず、それが他の言語体系においては語彙化されているという差異を指す。指示的ギャップは、一つの言語を話す集団には存在するものや概念が、他の文化には存在しないということである。詳細は Benson (1990)を参

このように二言語の語の間には、等価性の差がある。二言語辞書の項目を作成する際、それを考慮にいれなければならない。つまり、起点言語の語と目標言語の語のオーバーラップを具体的に分析する必要がある。それにはまず、意味的な重複部分と相違部分を調べ<sup>6</sup>、それに加えて、比較している語がどのような文脈で使われているかということも考慮に入れなくてはならない。そのための分析方法として、「対照的テキスト分析」が有効であるとする考え方がある。

Hartmann(1984, 1994)によると、「対照的テキスト分析」とは、同じジャンル（レシピ、マニュアルなど）のテキストを利用して、それぞれのテキストの中で同じ意味や機能を持つ語を発見し、語をそれらの自然な文脈の中で比較する方法である。このような対照的テキスト分析のための平行コーパスや、そして、さらにそれより強大なコーパスを使用して分析することで、語の特徴<sup>7</sup>が明らかになると考えられる。そして、このように語の意味や特徴が分かれば、起点言語の語と目標言語の語の類似点と相違点も明確になる。

また、いわゆるバーチャル辞書の場合、近い将来使用者自身が自己のニーズにあわせて、ある語の項目がどのような構成になっているかを決定することができ、同時に一言語辞書と二言語辞書、またそれ以外の参考資料にアクセスすることができるようになると言われている<sup>8</sup>。このようなバーチャル辞書を実現するためには、ある言語の語と等価関係にあるもう一つの言語の語が、どの程度意味領域や使用方法などにおいて重なっているかということ进行分析しなくてはならない。つまり、起点言語の語と目標言語の語における重複部分と相違部分を明確にする必要があるのである。

### 3. 具体的な例でみる意味領域の重複部分と相違部分

本節では具体的に日本語の三つの語がスロベニア語でどのような等価関係にあるのかを分析する。

#### 3.1 前線

##### > 一言語辞書における定義

広辞苑：ぜんせん〔前線〕①戦場で、敵と直接に接触する最前列。また、闘争や運動の先頭。第一線。②（気）前線面と地表面との交線。また前線面を含めて前線と呼ぶこともあり、天気変化に重要な役割を果たす。③海洋などで、性質の異なった二つの水塊が接触する場所。④地図上に、ある現象の生ずる地点を結んだ線。

日本語大辞典：ぜんせん〔前線〕①前方の線。front line②戦場。battlefield 対義 銃後③敵と向かいあっている所。the front④寒・暖二つの気団が進行していく場合の境界面と地表と

---

照。

<sup>6</sup> Krzeszowski(1990), p. 117 を参照。

<sup>7</sup> 「語の特徴とは、出現頻度、語の用法・意味の頻度、その語の直前・直後に表れる語の種類、同一文中に共起しやすい語がどのようなものか、などということである。」(加藤, 1998, p. 40)

<sup>8</sup> Atkins(1996)を参照。

が交わる曲線。付近は一般に天気が悪い。寒冷前線・温暖前線・停滞前線など。front

広辞苑と日本語大辞典の定義を見ると、前者の意味ブランチ①（戦場、第一線）が後者の意味ブランチ②③、そして①にも当たるといことが分かる。広辞苑の①にみられる「運動の先頭」という意味は、日本語大辞典には具体的に取り上げられていない。また、広辞苑の意味ブランチ②が日本語大辞典の④と同じ意味を示す。そして、広辞苑の意味ブランチ③と④の意味は日本語大辞典にはない。

**SSKJ:** fronta –e ž 1. področje, kjer se spopadata dve vojski 2. skupnost strank ali posameznikov, ki imajo isti cilj 3. drug poleg drugega stoječi predmeti ali objekti 4. prednja stran (stavbe), pročelje 5. mejno področje med zračnima gmotama, ki se razlikujeta zlasti po temperaturi, vlagi, oblačnosti

スロベニア語の一言語辞書において五つの意味ブランチがある（1 戦場 2 同じ目標を持つ人々や運動 3 列に並んでいるもの 4 正面）。1、2、と 5 は取り上げた日本語の辞典にもあるが、SSKJ の意味ブランチ 3、4 は日本語にはみられない。

➤ 平行コーパスからの例

前線

1) 明後日から土曜日にかけては晴れますが、今度の日曜日から月曜日にかけては低気圧や前線の影響で再び天気が崩れてくる見込みです。

**fronta**

2) Hladna fronta je bila nad Britanskim otočjem in bo za konec tedna vplivala tudi na vreme pri nas.

（寒冷前線はイギリス諸島に停滞し、週末にはわれわれにも影響を及ぼす見込みです。）

以上の用例にみられるように、気象用語としての「前線」と「fronta」の意味領域は同じである。それぞれの言語の気象用語辞典においても、同様に定義されている<sup>9</sup>。

➤ 実例

前線

**戦場の前線**

3) 仏 AFP 通信は 12 日、アフガニスタンの反タリバーン勢力、北部同盟軍の司令官の話として、北部同盟軍は首都カブール北方のタリバーンとの軍最前線を突破したと伝えた。

**気象用語**

4) 同庁 [気象庁] によると、前線が九州の南から東シナ海北部に停滞しており、前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んでいる。

<sup>9</sup> 『気象科学事典』（1998）と『Meteorološki terminološki slovar』（1990）を参照。

### 前方の線

5) 首相は、小松空港に到着後、加賀市内の親族の墓参りをし、集まった支持者らに「連立のみなさんのために（私は）全国をかけ回る。古い言葉を使うとしかられるかもしれないが、銃後のこと、前線で戦ってまいりますので、この地区はみなさんでお守りいただきたい」と語った。

### 地図上にある現象を生ずる地点を結んだ線

6) 沖縄の桜前線は北の山原（やんばる）から南下していくので、春の予感北の便り待ちである。

7) 京都地方気象台によると、11月の気温は例年並みかやや低め。紅葉前線は昨年より少し早く、これから下旬にかけて里に駆け下りる。

### 性質の異なった二つの水塊が接触する場所

8) 今年の場合、9月下旬ごろの親潮前線は、三陸沿岸からわずか50キロ前後の所に張り出す見込みで、漁場も沿岸寄りになるという。

### fronta

#### 戦場の前線

9) Gotovo bi šel k vojakom. Najbrž me ne bi poslali na **fronto**, kajti preiskave so pokazale, da imam ploske noge.

（間違いなく、召集されていたはずですが。しかし、検査で扁平足だという結果が出ましたので、前線に行くことにはならなかったでしょう。）

#### 気象用語

10) Hladna **fronta** je dosegla Alpe in bo ponoči prešla Slovenijo.

（寒冷前線はアルプスまで伸びている状況で、夜の間にはスロベニアを通過する見込みです。）

#### 同じ目標を持つ人々や運動

11) Gre predvsem za to, da bi na njej pod okriljem MOK ustvarili enotno **fronto** za boj proti dopingu ter se dogovorili tako glede metod in meril za njegovo odkrivanje, kakor tudi kazni, s katerimi naj bi zagrozili prestopnikom.

（その【会議の】目的は、国際オリンピック委員会がそこでドーピングに対して共同戦線（前線）を設立することであり、そして、ドーピングの使用を明らかにするための方法と基準を決めると同時に規則違反者に対する処罰を決定することにある。）

#### 前方の線

12) Notranji nadzor v javnih institucijah je prva bojna črta pri preprečevanju korupcije.

（公益法人の内部的コントロールは汚職の防波堤（前線）である。）

#### 対立

13) Medijsko najodmevnejša je seveda **fronta** med notranjim ministrom Mirkom Bandljem in predsednikom socialdemokratske stranke Janezom Janšo.

(もちろん、マスメディアで最も注目を浴びているのは内務大臣ミルコ・バンデルと社会民主党のリーダーヤネス・ヤンシャとの対立(前線)である。)

**分野**

14) Novo organiziranost in preimenovanje podjetja so v Muri, je povedal Ebenšpanger, občutili po močnem novem zagonu na celotni fronti poslovanja.

(エベンシュバンゲールによると、新たな組織化と名称変更のおかげで、ムラ事業の全ての分野(前線)が活発になった。)

実例を見ると、「戦場の前線」と「気象用語の前線」の意味は両言語にはあるということが分かる。「運動の先頭」という意味は両言語の辞書の定義にはみられるが、実例はスロベニア語でしか見つからなかった。また、「戦場の前線」から派生した「前方の線」という意味はスロベニア語で「prva frontna linija」ではなく、「prva bojna črta」になる場合が多いということがFIDAから分かる。つまり、外来語の「frontna linija」ではなく、スロベニア語語幹の「bojna črta」が使われているのである。

「前線」と「fronta」の意味領域における重複部分と相違部分を以下の表にまとめた。

➤ 重複部分と相違部分

前線：fronta

【表1】：重複部分

日本語	スロベニア語
戦場で、敵と直接に接触する所	področje spopada dveh vojsk
気象用語	vremenska fronta
(運動の先頭)	skupnost ljudi z istim ciljem

【表2】：相違部分

日本語	スロベニア語
前方の線	prva bojna črta
地図上に、ある現象の生ずる地点を結んだ線	
性質の異なった水塊が接触する場所	
	področje (分野)
	konflikt (対立)
	(drug poleg drugega stoječi predmeti, 列に並んでいるもの)
	(pročelje, 正面)

表1にみられる「前線」と「fronta」の意味ブランチは、一言語の意味記述とコーパスからの用例に基づいたものである。重複部分の場合、左側にある日本語の意味記述と右側にあるスロベニア語の意味記述の間にイコールの関係がみられる。ただし、「運動の先頭」という意味は、日本語の実例にはなかったため、その意味を表で括弧に入れることにした。

相違部分の表 2 には、まず「戦場の前線」から派生した「前方の線」を入れた。その使い方は両言語にはみられるが、スロベニア語では、例 12 のように、外来語ではなく、スロベニア語語幹の「bojna črta」が使われているということが FIDA コーパスから分かった。この場合、意味領域は同様であるが、使用上の相違があるため、表 2 でそれを相違部分に入れることにした。そして、意味領域が重なっていない部分に関しては、日本語における「地図上に、ある現象の生ずる地点を結んだ線」、「性質の異なった水塊が接触する場所」といった二つの意味はスロベニア語にはない<sup>10</sup>。そして、スロベニア語の 13 と 14 の例にみられるような、「対立」と「分野」の「fronta」の意味は日本語にはみられない。また、SSKJ の 3 (列に並んでいるもの) と 4 (正面) の意味はスロベニア語のコーパスにはなかった<sup>11</sup>。これらは現代スロベニア語において使われていないということが FIDA コーパスから分かった。そのため、それらの意味を表 2 に括弧に入れたが、二言語辞書にはこの二つの意味ブランチを含む必要がないと思われる。

前述の三つのソースに基づいた分析を一般化すると、「前線」と「fronta」の間に高い等価性がみられるといえる。ただし、この場合、中心的な意味合いは同一と見なし得るが、周辺的な意味においては差が認められる。

### 3.2 日差し

#### ▷ 一言語辞書における定義

広辞苑：ひざし〔日差し・陽射し〕①日光の照りつけること。②日脚。

日本語大辞典：ひざし〔日差(し)・陽射(し)〕日光がさすこと・程度・ぐあい。日光。  
sunlight

両辞書の意味ブランチの立て方が違う。広辞苑の①の意味は日本語大辞典の意味とほぼ同じである。広辞苑の②の意味は日本語大辞典の「日光がさすぐあい」とほぼ同じであると思われる。従って、以下は日本語大辞典のブランチの立て方に従うことにする。

**SSKJ:** sončen -čna -o 1. nanašajoč se na sonce: *sončno jedro / sončni žarki / sončna svetloba, toplota* など 2. za človeka zelo prijeten

sonce -a s 1. nebesno telo, okoli katerega krožijo zemlja in drugi planeti našega zvezdnega sistema 2. svetloba, žarki, prihajajoči neposredno od tega nebesnega telesa 3. nebesno telo, središče drugih zvezdnih sestavov 4. sreča, veselje 5. kdor ima pozitivno lastnost, kot jo izraža prilastek, v zelo veliki meri 6. poudarja pomen samostalnika, na katerega se veže 7. poudarja trditev 8. svetilka z živosrebreno žarnico iz kremenovega stekla, ki prepušča ultravijolične žarke

スロベニア語の「sončen」という形容詞の定義を見ると、1 の意味ブランチ（太陽から

<sup>10</sup> 従って、表 2 ではスロベニア語側は空欄である。

<sup>11</sup> 5220 の例の中には以上の意味を持つ例がなかった。FIDA を参照。

生じるもの)には広辞苑と日本語大辞典の「日差し」の意味も含まれているということが分かる。「sončni žarki (太陽光線)」という例も取り上げられている。2の意味(明るい、快適な)は日本語の定義にはみられない。また、「sonce」の定義から分かるのは、「日差し」が2の意味ブランチとほぼ同じであるということである。それ以外の意味ブランチ(太陽、楽しさ、幸福など)とは相違がみられる。

▶ 平行コーパスからの例

日差し

15) 関東の東部や南部の方は晴れのマークはありませんが、日中は日差しのこぼれる所は多い見込みです。

**sončni žarek**

16) Več dežja bo vsekakor v petek kot v soboto, le na Primorskem bo v soboto morda nekaj **sončnih žarkov**.

(金曜日より土曜日の方が雨が降る見込みです。プリモルスカだけは土曜日にも日差し(太陽光線)が出るでしょう。)

**sončen**

17) V gorah bo zjutraj še **sončno**, popoldne pa se bo zmerno pooblačilo.

(山の方で朝はまだ日差しが出ますけれども、午後になりますと、しだいに雲が広がりやすくなるでしょう。)

**sonce**

18) **Sonce** je danes najprej obsijalo Primorsko, Gorenjsko in Koroško.

(今日は最初プリモルスカ、ゴレンスカ、コロシュカに日差し(太陽)の出るところがあった。)

「日光の照りつけること」という意味で平行コーパスにはスロベニア語で「sončni žarki」「sončen」「sonce」のような語が等価性を持つということが分かる。「sonce」とその形容詞「sončen」もほぼ同等の意味を持つと思われるが、中でも意味的に類似性の最も高いのは「sončni žarki」であろう。

▶ 実例

日差し

日光がさすこと

19) 太陽電池は黒いイメージがあるので実際にこれを見て明るく感じる人が多いようです。夏は日差しをやわらげてくれる効果もあります。

**sončni žarek**

日光がさすこと

20) V najboljšem vročem delu dneva zagnite senčila in zavese, saj tako preprečite, da bi

**sončni žarki sijali v sobo.**

(日中の一番暑いとき、日差しが部屋に入るのを防ぐため、シャッターを閉め、カーテンを引いてください。)

**sončno**

日光がさすこと

21) V nekem trenutku je lahko **sončno**, a že čez nekaj minut se vsuje močna ploha.

(日差しがあっても、その数分以内に夕立がある場合もある。)

明るい

22) Pod odrskimi lučmi **zginejo** vsi strahovi in negotovosti, ki jih ima vsako dekle njenih let. Sara se zdi **sončen** človek.

(舞台に立つと、彼女の年齢の女の子が持っている全ての不安や不満がなくなる。サラは明るい人に見える。)

**sonce**

日光がさすこと

23) Najidealnejši čas za gobarjenje je tri do štiri dni po dežju, ko se spet prikaže **sonce** in ogreje tla.

(キノコ狩りに最も理想的な時期は、地面を暖める日差しが戻ってくる、雨から三、四日後である。)

太陽

24) Tako kot je Kopernik razkril, da se ne vrti **Sonce** okoli Zemlje, ampak da se Zemlja vrti okoli **Sonca**, je tudi Freud premestil središče človeškega sveta z zavestnega v nezavedno.

(フロイトは、コペルニクスが太陽が地球の周りを回転するのではなく、地球が太陽の周りを回転するという発見と同様に、人間の中心を意識から無意識に移した。)

「日差し」はスロベニア語では一つの語ではなく、幾つかの語と部分的な等価性を持つということが実例でも確認された。等価性が最も高いのは「sončni žarki」であり、「sončen」と「sonce」の場合は「日差し」との相違部分もある。「sončen」は、例 22 でみられるように、「明るい」の意味も持ち、「sonce」は「太陽」(例 24) などの意味で「日差し」と異なっている。

➤ 重複部分と相違部分

日差し：**sončni žarki**

【表 3】：重複部分

日本語	スロベニア語
日光がさすこと	sončni žarki



日差し：sonce

【表4】：重複部分

日本語	スロベニア語
日光がさすこと	Sonce

【表5】：相違部分

日本語	スロベニア語
	Sonce (太陽)
	sonce (楽しさ、幸福)

日差し：sončen

【表6】：重複部分

日本語	スロベニア語
日光がさすこと	sončen

【表7】：相違部分

日本語	スロベニア語
	sončen (明るい)

「日差し」は「sončni žarki」と等価性を持つが、「sonce」と「sončen」との関係には部分的な等価性がみられる。「前線」の例と比較すると、相違部分が大きいであるということが分かる。

### 3.3 陽気

#### ➤ 一言語辞書における定義

広辞苑：ようき〔陽気〕①陽の気。万物が動き、または生じようとする気。②心がはれはれしいこと。ほがらかなこと。気分がうきうきすること。③時候。季節。

日本語大辞典：ようき〔陽気〕一（名詞）①気候。時候。weather 用例 ～がいい②万物が発し動こうとする気。対義 陰気 二（形動）明るくほがらかで、晴れ晴れしいさま。また、にぎやかに人づきあいをするさま。cheerful 対義 陰気。用例 ～な人。～に騒ぐ。派生ようきさ（名）

広辞苑ではまず語源的な意味を取り上げ、次にそれ以外の意味ブランチを取り上げている。一方、日本語大辞典では意味ブランチの順が違うが、両方の辞書には三つの意味が取り上げられている。

**SSKJ:** vreme -ena s stanje ozračja glede na temperaturo, vlago, oblačnost

vesel -la -lo 1. ki je v stanju veselja 2. ki občuti veselje, zadovoljstvo ob čem 3. ki povzroča veselje 4. lahko se premikajoč, živahen 5. svetle barve, živopisan 6. z

#### oslabljenim pomenom *vesel pust*

スロベニア語と比較すると、「気候」の意味には、「vreme (天気)」と重なる部分があり、「明るくほがらかで晴れ晴れしいさま」は「vesel」などと等価性を持つと考えられる。ただし、「陽気」と異なる意味も持つ（「楽しい、嬉しい」など）。そして、「万物が発し動くとする気」という意味がスロベニア語にはない。これは指示的ギャップといえる。

#### > 平行コーパスからの例

- 25) ただ湿気が多く、むしむしとした陽気は続きそうです。
- 26) これから明後日ぐらいにかけては、朝晩は涼しい陽気が続きそうです。
- 27) 20度前後で快適な陽気が続くでしょう。

#### soparno

- 28) Podnevi bo sončno, vroče in dopoldne **soparno**.  
(昼は晴れ、暑いでしょう。そして、午前中はむしむしするでしょう。)

#### osvežiti se

- 29) V sredo se bo **osvežilo**.  
(水曜日は涼しくなる見込みです。)

#### prijeten

- 30) Ponedeljek bo **prijeten** septemberski dan.  
(月曜日は快適な9月の一日になりそうです。)

#### lep

- 31) Nad Sredozemljem, v srednji in južni Evropi je danes prevladovalo **lepo, sončno vreme**.

(地中海及び中央、南ヨーロッパでは今日は晴れて、いい天気でした。)

本論文で分析の対象になっている語の中で、「気候」の意味の「陽気」と等価性を持つ語を探すのに平行コーパスが最も役に立った。つまり、「陽気」を含む文脈を、スロベニア語の類似の文と比較するならば、「陽気」はほとんど使われていないことが分かる。そのため、例えば「むしむしとした陽気」をスロベニア語で表現するならば、「soparno」が適切であり、「涼しい陽気」は「svež」「osvežiti se」になり、そして「快適な陽気」は「prijeten」や「lep」と訳出できる。その際に、これらは、「陽気」の修飾語における意味が、スロベニア語では動詞あるいは副詞で表されることを示している。ただし、31の例にみられるように、形容詞が「vreme」を修飾する場合もある。

#### > 実例

#### 陽気

#### 気候

- 32) 西海岸特有のからっとした陽気と刺すような日差しを受け、時差ぼけ解消のためピバリーヒルズやロスのダウンタウンを楽しむ。

明るくほがらかで晴れ晴れしいさま

33) メキシコは群馬より住みやすい気候で、昼と夜の気温差は大きいですが、昼間は 1 年中、半そでの服で過ごせる暖かさでした。酒やパーティーが好きな陽気な人々も多く、練習や試合以外の時間は遊び回りました。

**prijeten**

気候

34) Bil je **prijeten** dan pa tudi čas me ni preganjal, zato se odločim, da bom na poti domov vozil po vseh predpisih.

(陽気のいい日だったし、時間もあったので、帰るときには規則に従うような運転をすることにした。)

**vesel**

明るくほがらかで晴れ晴れしいさま

35) Tretji je bil vedno **veseli** domači tekmovalec Slavko Komel z astro

(三番目はアストラを運転する、いつも陽気な地元のスラブコ・コメル選手でした。)

嬉しい

36) Res sem **vesela**, da sem danes zmagala.

(今日は勝って、本当に嬉しいです。)

実例においては、陽気の「気候」の意味は両方の言語で確認された。そして、「vesel」の場合、重複部分もあるし、相違部分もあるということが分かった。また、「万物が発し動くとする気」の陽気は日本語の実例にはなかった。それはこの意味の使用頻度が低いということを指すと思われる。

#### ➤ 重複部分と相違部分

「陽気」の場合、前述の例より相違部分がさらに大きいである。その理由は、一言語辞書においても、「陽気」の意味記述を厳密に記すことが難しいであるということにはあると思われる。例えば、気象情報の平行コーパスにみられる「陽気」の意味は一言語辞書には「気候」として取り上げられているが、それらの語には微妙に異なるニュアンスがあるのではないと思われる。このように一つの言語体系の中でさえつかみにくい語を他の言語の語と対照的に比較すると、その関係もはっきりしないことになる。この場合、平行コーパスで分かったのは、「陽気」を含む文脈を、スロベニア語の類似の文と比較するならば、「陽気」はほとんど使われていないということである。このようにスロベニア語において「☀」が日本語の「陽気」と重複部分にある。そして、「明るくほがらかで晴れ晴れしいさま」という意味では「陽気」が「vesel」と重なっている部分もあるが、重なっていない部分がそれより大きい。また、「万物が動き、または生じようとする気」の意味においては重複部分が全くみられない。

#### 4. 重複部分と相違部分についての考察

等価性が高い語から等価性が低い語までの例において、重複部分と相違部分を具体的に見てきた。ほぼ等価と見なされる語同士にも、当然重複部分と相違部分とが包括されているということが分かった。そして、等価性の度合いが低くなってきていることにつれて、相違部分が大きくなり、また一つの日本語の語が一つのスロベニア語の語だけではなく、幾つかのスロベニア語の語と部分的な等価性を持つということになる。そこで、問題設定の際に、異なる部分に焦点を置くか、重なっている部分に焦点を置くかということが問題になる。また、その観点について同様のことがいえる。ある日本語の語がスロベニア語の語と重複部分を持つ場合、日本語側から見ても、スロベニア語側から見ても、同じ意味を持つ語がある。一方、ある日本語の語がスロベニア語の語と相違部分を持つ場合、日本語側から見た場合とスロベニア語側から見た場合とで、見える内容が違ってくることが分かる。このような観点の差は辞書の方向を決めるときに重要である。つまり、スロベニア母語話者向けのデコーディング辞書の場合、ある情報が不必要とみなされるのに対して、日本語話者のエンコーディングのためには、同じ情報が不可欠になる。

次に資料のタイプについて検討したいと思う。本論文では、三つのタイプの資料（一言語辞書、平行コーパス、実例）を使用した。そのうち、一言語辞書の項目は参考にはなるが、それだけに基づいて対照分析を行わない方が良いと思われる。その一つの理由は、「陽気」の「気候」の意味ブランチでみたように、一言語の辞書においての意味記述がいつも適切とは限らない。また、意味ブランチの立て方にも問題がある場合もあるということが分かった。例えば、SSKJの「sonce」の意味において、意味ブランチ1と3の意味記述には差がほとんどみられない。このようなことから、ある語の意味領域を理解するのに、一言語辞書の定義は足りないということが分かる。

平行コーパスや実例は、一言語辞書の定義を補い、その語を文脈の中で分析することができる。対照的テキスト分析はある限られた場面ではしか作れないが、その場面では使われている語を詳細に対照的に検討できる。気象情報のような場面は、いわゆるサブランゲージ(sub-language)の例であり<sup>12</sup>、言語体系全体と比べると語彙や文のパターンが限定されていると言われているが、サブランゲージの例からも言語体系全体に当てはまるようなパターンを抽出していくことができると考えられる。本研究では、特に部分的な等価性のパターンがある「日差し」と「陽気」の場合、等価性を持つ語を探すのに、平行コーパスが最も効果的であった。そして、実例では辞書の定義を確認することができる。そのことによって、ある語の使用頻度がわかり、相対的に頻度が低い意味ブランチが見分けられる。それは例えば、「陽気」の「万物が動き、または生じようとする気」の意味、そして、SSKJの「fronta」における「列に並んでいるもの」と「正面」の意味の場合である。また、分析対象になっている語の典型的な使用パターンも実例から明らかになる。

## 5. まとめ

以上、幾つかの日本語の語とそれらのスロベニア語で等価関係にある語について分析した。その結果、起点言語の語と目標言語の語との関係が絶対的ではないということが分かった。というのは、分析する側の観点によって、見える等価関係の内容が違ってくるのである。特に相違部分を決定する際、観点が大きな役割を果たすということが前述の例から明らかになった。言い換えれば、等価性は相対的な範疇であるということである。

Aitchison(1994)によると、一つの言語体系の中でさえつかみにくい、いわゆる *fuzzy edge* のある語があるという。そのような語を他の言語の語と比較すると、その関係もはっきりしないことになる。前述の例を考慮にいれると、「前線」の意味領域は明確であるが、「日差し」と「陽気」がそれより曖昧で、*fuzzy edge* を持つ語の例になると思われる。その理由は日本語でさえもそれらの指示物や指示がはっきりしていないということにあると考えられる。その結果、対照分析の場合 *tertium comparationis*<sup>13</sup>も明確ではない。このような場合、起点語の語とその語が等価性を持つ目標言語の語の重複部分と相違部分の分析を正確に行うため、特に対照的テキスト分析とコーパスの検索が役に立つということが分かった。

### 【参考文献】

- Aitchison, J. (1994) *Words in the Mind: An Introduction to the Mental Lexicon*, Oxford: Blackwell.
- Atkins, B. T. S. (1996) Bilingual dictionaries. Past, present and future. *Euralex '96 Proceedings*, II, eds. M. Gellerstam et al. Göteborg: Göteborg University, pp. 515-546.
- Benson, M. (1990) Culture specific items in bilingual dictionaries of English, *Dictionaries*, 12, Dictionary Society of North America, pp. 43-54.
- Hartmann, R. (1985) Contrastive text analysis and the search for equivalence in the bilingual dictionary, *Symposium on Lexicography II*, eds. K. Hyldgaard-Jensen & A. Zettersten, pp. 121-132.
- Hartmann, R. (1994) The use of parallel corpora in the generation of translation equivalents for bilingual lexicography, *Euralex 1994 Proceedings*, eds. W. Martin et al., Amsterdam: Vrije Universiteit, pp. 291-297.
- Krzyszowski, T. P. (1990) *Contrasting Languages: The Scope of Contrasting Linguistics*, Berlin: Mouton de Gruyter.
- Lehrberger, J. (1986) Sublanguage Analysis, in: *Analyzing Language in Restricted Domains*, ed. R. Grisham, R. Kittredge, Hillsdale: Lawrence Erlbaum Associates, pp. 19-38.
- Zgusta, L. (1971) *Manual of Lexicography*, The Hague: Mouton
- 加藤安彦(1998)「事典とコーパス」『日本語学』Vol. 17, pp. 37-44.

---

<sup>12</sup> Lehrberger(1986)を参照。

<sup>13</sup> つまり語が「指示すること」を通じて比較を行う場合。

ロワン、バルバラ(2000a)「等価性の連続性について」『筑波応用言語学研究』Vol. 7, pp. 71-84.  
ロワン、バルバラ(2000b)『二言語辞書における等価性について』筑波大学大学院修士課程地域  
研究研究科修士論文

#### 【辞書】

*Slovar slovenskega knjižnega jezika* (1970) Prva knjiga A-H, (1975) Druga knjiga I-Na, (1979)  
Tretja knjiga Ne-Pren, (1985) Četrta knjiga Preo-Š, eds. A. Bajec et al., Ljubljana:  
Državna založba Slovenije.

*Slovar slovenskega knjižnega jezika* (1991) Peta knjiga T-Ž in Dodatki A-Š, eds. I. Černellč  
et al., Ljubljana: Državna založba Slovenije.

*Metereološki terminološki slovar* (1990) ed. Z. Petkovšek, Ljubljana: Slovenska akademija  
znanosti in umetnosti.

梅棹忠夫編『日本語大辞典』(1995)講談社カラー版、第二版、講談社

新村出編『広辞苑』(1998)第五版、岩波書店

日本気象学会『気象科学辞典』(1998)東京書籍

NHK放送文化研究所(1996)『NHK気象ハンドブック』日本放送出版協会

#### 【資料】

朝日新聞 <http://www.asahi.com/sitemap/index.html>

毎日新聞 <http://www.mainichi.co.jp>

中日新聞 <http://www.chunichi.co.jp>

青空文庫 <http://www.aozora.gr.jp>

CD-ROM版『新潮文庫の100冊』

FIDA korpus: <http://www.fida.net>